

平成 26 年度第 2 回学校関係者評価委員会議事録

日 時 平成 26 年 11 月 26 日 (水) 13 時 30 分～14 時 50 分
場 所 坪内学園 1 号館 6 階大会議室
委員定員 13 名
出席委員 9 名
今岡克己、吉川寛樹、小島克己、永島一雄、萬代幸次、藤原邦弘、
武藤裕人、持田幸治、森脇建二
委員以外の出席者 村上浩二 (校長)
坪内理事長、伊藤優作、林京子、米村尚子 (事務局)
議 題 (1) 平成 26 年度目標に対する中間状況について
(2) その他

議事の経過及び結果

坪内理事長、村上校長の挨拶の後、永島委員長により議事が進められた。
これに対する質疑応答等は以下の通りである。

議 事

- (1) 平成 26 年度目標に対する中間状況について ※資料参照
・伊藤ブランドマネージャーにより中間状況について説明がなされた。

※質疑応答

①教務部の状況に対して

- ・学生のアンケートを公表してはどうか。
- ・就職後 1 年くらいの卒業生に対して「もっと～をしておけば良かった」等の生の声を聞き取るアンケートや聞き取りを行うと良いのではないか。
- ・先輩に来てもらって話を聞くなど、社会人の視点で学べると良い。
- ・学生の様子を見ていると、資格試験のための授業は理解度が高いが、社会へ出た時のための授業というと苦手なようである。
- ・資格の上級者でも中級者でも実践力があれば社会で活躍できる。
- ・専門卒は大卒と高卒との間にあって、社会へ出るとどちらとも競合するので、何かで差別化を図らなければならない。その 1 つの目安として資格は必要である。
- ・起業できるくらいの能力・スピリッツ・手に職・自信を付けさせて欲しい。
- ・学力は有るが、登校できない・教室に入れない・授業についていけないというような学生にもきちんと対応しなえなければならない。

②キャリアセンターの状況に対して

- ・離職しないためには社会的ステータスの前の基礎知識 (労働基準法・税金・就業規則等) や働く知識を付けさせることが必要である。
- ・就職実践の授業で充実させることは可能である。
- ・内定率を過去 3 年と比較してみるとよいのではないか。

※評価記入表へ記入していただいたご意見等は別紙のとおり。

(2) その他 特になし

本会の議事録および提出いただいたご意見をまとめてホームページに掲載することを確認し、定刻通り終了した。

以上の議事を証する為、議長及び議事録署名人において記名押印する。

平成 26 年 11 月 26 日

学校法人坪内学園 専門学校 松江総合ビジネスカレッジ 学校関係者評価委員会

議 長

永島一雄 

署名委員

萬代幸次 